

幼稚園における保育参画の意義と課題  
～愛媛大学教育学部附属幼稚園の取り組みから～

青 井 倫 子 (教育学部・幼児教育講座)  
小 川 敦 子 (尾道市立重井幼稚園)

Meanings of Parental Participation as a Teacher in Kindergarten

～The case of Kindergarten attached to Ehime University～

**Tomoko AOI and Atsuko OGAWA**

愛媛大学教育学部紀要

第56巻 抜刷

平成21年10月

## 幼稚園における保育参画の意義と課題 ～愛媛大学教育学部附属幼稚園の取り組みから～

(教育学部・幼児教育講座) 青井倫子  
(尾道市立重井幼稚園) 小川敦子

### Meanings of Parental Participation as a Teacher in Kindergarten

～ The case of Kindergarten attached to Ehime University ～

Tomoko AOI *and* Atsuko OGAWA

(平成21年6月5日受理)

#### I. 研究目的

平成18年12月、約60年ぶりに教育基本法が改正された。改正前の教育基本法においては、幼児教育についての言及はなかったが、この度の改正により、第11条において「幼児期の教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものであることにかんがみ、国及び地方公共団体は、幼児の健やかな成長に資する良好な環境の整備その他適当な方法によって、その振興に努めなければならない」と明文化され、幼児教育の重要性が初めて位置付けられた。

教育基本法の改正とそれに続く平成19年6月の学校教育法の改正を受けて行われた平成20年3月の幼稚園教育要領の改定では、幼稚園教育は「環境を通して行うものである」という幼稚園教育の基本を引き継ぎつつ、社会状況を踏まえ、以下の2点について内容の充実が図られた。①近年、子どもの育ちが変化しており、基本的な生活習慣の欠如、食生活の乱れ、自制心や規範意識の希薄化、運動能力の低下、コミュニケーション能力の不足、小学校生活にうまく適応できないなどの課題、②社会状況の変化による家庭や地域の教育力の低下の中、保護者の子育てに対する不安を解消し、親がその喜びを感じることができるよう、幼稚園の機能を生かした子どものよりよい育ちを実現する子育ての支援が求められているとともに、いわゆる預かり保育を実施する幼稚園が増加しており、幼稚園の教育活動としての適切な実施が求められていること、などに対応し、幼稚園教育の充実を

図るものとされた。

核家族化、地域のつながりの希薄化など子育てを取り巻く状況はけっして明るくない。さまざまな育児支援政策が打ち出されながらも、保護者の子育て不安や子育ての負担感はいっそう増大しているといわれる(藪田・西垣他、2006など)なか、上述の通り、平成20年改訂の幼稚園教育要領は、子育て支援のいっそうの充実を掲げ、幼稚園が子育て支援において多様な役割を果たすことを求めた。それは、地域のすべての子どもとその保護者を対象とした支援と、現に幼稚園に在籍する園児とその保護者を対象とした支援の双方においてである。

幼稚園のもつ機能や施設を地域に開放し、幼稚園が地域における幼児期の教育のセンターとしての役割を担う例としては、「地域の子どもの成長、発達を促進する場としての役割、遊びを伝え、広げる場としての役割、保護者が子育ての喜びを共感する場としての役割、子育ての本来の在り方を啓発する場としての役割、子育ての悩みや経験を交流する場としての役割、地域の子育てネットワークづくりをする場としての役割など」が挙げられている(文部科学省、2009)。こうした役割を踏まえ、現在、全国の幼稚園において実際に行われている子育ての支援活動の具体例としては、子育て相談の実施、子育てに関する情報の提供(子育て便りなど)、親子登園などの未就園児の保育活動、子育て井戸端会議などの保護者同士の交流の機会の企画、園庭・園舎の開放、子育て公開講座の開催などが挙げられており、各幼稚園におい

て、地域の実態や保護者の要請に応じて創意工夫し、子育ての支援活動をできることから着実にすすめることが重要であるとしている。

他方、在籍園児の家庭に対しては、幼稚園での生活と家庭などでの生活の連続性を踏まえた幼稚園教育の充実が求められている。幼児期の教育では、幼稚園、家庭、地域社会の生活が連続性を保つなかで展開されることが重要であり、また、本来、幼稚園は家庭とともに連携して教育を行うものであり、家族のつながりや子育てが変容している現実を踏まえて、きめ細かな家庭との連携を考える必要がある。このため、平成20年の幼稚園教育要領の改定では、①家族とのつながりに気づくこと、②家庭とともに基本的な生活習慣を形成すること、③保護者の幼児期の教育に関する理解を深めることが求められた。すなわち、幼稚園の機能や施設を生かして保護者の学習の機会や保護者同士の交流の機会を提供したり、保護者との情報交換の機会や、保育参加などで保護者と幼児と一緒に活動する機会を設定したりなどして、幼児期の教育に関する保護者の理解を深めると同時に、保護者と幼稚園が共に幼児を育てるという意識を高め、子どものよりよい育ちが実現するような子育ての支援が、いま求められている。

家庭と園の連携として、また子育て支援の一つとして、これまで多くの幼稚園が取り組んできたものに、保育参観や保育参加がある。「保育参観」は、小学校などの授業参観と同様、子ども達のふだんの生活リズムを守りながら保育を外側から見て、理解するものである。したがって、保育参観において、保護者と保育者・子ども達は、観る－観られるという関係にある。そのため、保育者・子ども達が一方的に観られているという圧迫感を感じたり、観る側の保護者のなかにはおしゃべりや写真撮影に終始する者が少なくなかったりなど、保育参観は子ども達、保育者、保護者のいずれにとっても望ましい形態ではないとする見解もある（友定，2004）。

それに対して、近年多くみられるようになってきたのが「保育参加」である。保育参加は、子どもの園生活に保護者も参加し、一緒に遊んだり活動したりなど体を動かしながら園での生活を子ども達と共に体験してもらうことで、子ども達の中に生じている感情を保護者も自らの内側から感じ、体験的に理解するものである。親と子

が同じフィールドに立ち、共に保育の一場面を形成していくため、保育参観のように一方的に観られる圧迫感を感じることも少なく、お父さんやお母さんが一緒に遊んでくれる嬉しさから子ども達が積極的に保護者を迎え入れることができ、親と子の双方が楽しく生き生きとした体験ができるという特徴をもつ。また、保育参加を通して、保護者が親として成長したり、親子関係が変容していくことなどが示唆されている（友定，2004，藪田・西垣他，2006）。

本稿で取り上げる愛媛大学教育学部附属幼稚園は、保育参観や保育参加に比べ、より積極的、主体的に保育に関与することを保護者に求める「保育参画」を実施している。愛媛大学教育学部附属幼稚園の保育参画の特徴は、保護者が自身の特技を生かすなどした独自の企画を考え、保育時間中に、子どもたちに働きかけるという点である。保育参加が保育の場における子ども達の経験の体験的理解であるのに対して、保育参画は保護者が保育の一部を担うという保育者体験の側面を持つ点において、保育参観、保育参加とは異なる特性をもつものである。本稿では、保育参画の様子の参与観察と保育参画を行った保護者へのアンケート調査から保育参画の意義や課題を明らかにしたい。それにより、保育参画が子育て支援や、家庭と幼稚園との連携を深める場として、どのように機能するのかを考える一歩としたい。

## Ⅱ. 研究方法

対象：愛媛大学教育学部附属幼稚園の保育参画

保育参画の観察：保育参画週間であった平成20年6月17日（火）、18日（水）、19日（木）、21日（土）、24日（火）に、保育参画の様子を観察し、ビデオカメラ及び筆記により記録を行った。また、保育参画直後に学級ごとに行われる教師と保護者による懇談会の様子をテープレコーダで録音した。

アンケート調査：保育参画後に保護者を対象に保育参画についてのアンケート調査を実施した。調査用紙は、質問に対する自由記述の形式を主とするもので（資料参照）、「独自に企画を計画・実施した保護者用」「幼稚園が準備した企画（カレーづくり）を実施した保護者用」「保育時間中の自由なかかわりのみの保護者用」の3種類を準備し、担任教師を通じて各家庭に配付、回収した。

### Ⅲ. 結果と考察

#### 1. 愛媛大学教育学部附属幼稚園の保育参画の概要

##### (1) 保育参画についての周知

平成20年度は、6月17日(火)、18日(水)、19日(木)、21日(土)、24日(火)が保育参画週間として設定され、5月23日(金)に「保育参画ガイド」が配付された。保育参画ガイドは、「保育参画は、参観ではなく、保護者の皆様に保育に参加していただき、子ども達と一緒に活動していただく行事です。この行事を通して、子ども達の遊びの大切さを理解したり、幼児期の健やかな育ちや、それを支える私たち大人の在り方などについて考えていただけたら幸いです」と始まり、「幼稚園というところー幼児教育を理解していただくために」「参画にあたってのお願い」「参画週間での1日の流れ」から構成されている。

##### (2) 保育参画の内容

保育参画週間において1人1回1時間以上の保育参画が原則であり、保育参加のような保育時間中の自由なかかわりに加え、保護者独自の企画を保育時間中に実施す

ることを勧めている。企画の内容は同じ参画日の保護者(各保育室の前に参画日程表が掲示してあり、保護者各自が参画したい日に記名する)が相談のうえ決定し、準備をすすめるが、その内容が子ども達の発達に適さないと教師が判断した場合には、教師が保護者に適宜助言を行う。また、幼稚園が準備した企画(平成20年度の場合は、カレーづくり)を行う場合、参画日当日までに保護者が準備すべきことはなく、参画日当日に、教師の指示のもとカレーづくりに参加する。保育参画終了後には、学級ごとに教師と保護者との懇談会が行われる。

##### (3) 保育参画週間における保護者の参加数

保育参画週間の5日間の参加保護者数は、表1に示す通りである。いずれの年齢においても、母親単独での参加が大半を占めるが、年中組、年長組では父親単独での参加者もあり、また各年齢とも少数ではあるが夫婦で保育参画に参加した家庭もあった。参画週間に土曜日が含まれていたことが父親の参画や夫婦での参画につながったものと思われる。

表1 保育参画に参加した保護者数

	年少	年中	年長	合計
母親のみ	18人	50人	52人	120人
父親のみ	0人	8人	12人	20人
夫婦	10人(5家庭)	4人(2家庭)	2人(1家庭)	16人(8家庭)
合計	28人	62人	66人	156人

##### (4) 参加形態と、保護者独自の企画の内容

保護者独自の企画を行った保護者は、年少組28名(うち、夫婦での参加が5家庭)、年中組62名(うち、夫婦での参加が2家庭)、年長組41名(うち、夫婦での参加が1家庭)の計131名、保育参画者全体(156名)の84.0%であった。幼稚園が準備した企画(カレーづくり)に参加した保護者はいずれも年長組の17名(全体の10.9%)、保育時間中の自由なかかわりのみの保護者はいずれも年長組の8名(全体の5.1%)であった。

保護者による独自企画の内容は、次の通りである。  
( )内人数は、その企画を担当した保護者数を示す。  
年少組:ミニ・イングリッシュ(5名)、手洗いの方法(2名)、ペープサート(8名)、折り紙のお店屋さん(8名)、

サンドウィッチづくり(5名)

年中組:リトミック(7名)、スライムづくり・野菜を使ったスタンプ(3名)、ホットケーキづくり(8名)、風船パレー(9名)、切り絵(5名)、布絵本の読み聞かせ(5名)、お魚天国のパラパラダンス(5名)、紙芝居・電車ゲーム(6名)、パネルシアター・弓矢づくり(8名)、体操教室(6名)

年長組:紙芝居(2名)、クッキーづくり(3名)、ミニ音楽会(8名)、大型絵本の読み聞かせ(5名)、クイズ・間違い探し(6名)、クイズ(9名)、新聞紙ゲーム(4名)、じゃんけん列車(4名)

##### (5) 保育参画日の流れ:

保護者独自の企画をする時間は、教師と相談の上、基

本的には保護者の希望に沿って決定される。したがって、「降園前のひととき」に5~10分程度で行われるものもあれば、保育時間を通して実施されるものもある。たとえば、6月17日（火）、21日（土）の年少組の1日の流れは、以下のものであった。

6月17日（火）年少組：登園→遊び→おやつ→降園前のひととき（保護者の企画：ミニイングリッシュ）→帰りのあいさつ→懇談会

6月21日（土）年少組：登園→遊び（保護者の企画：折り紙のお店屋さん）→おやつ→降園前のひととき→帰りのあいさつ→懇談会

## 2. 保育参画の意義

### (1) 保護者のつながりづくりの促進

子育ての不安感や負担感を軽減するためには、子育てが家庭内に閉じ込められてしまわないこと、自分だけで子育てを抱えこまないことが大切である。幼稚園と保護者、あるいは保護者同士が一緒になって子育てをしているという子育ての共有感や連帯感が生まれることで、子育ての楽しさが増し、子育ての負担感が軽減されることが示されている（友定，2004）。このように、保護者同

士のネットワークの重要性が示唆される一方、幼稚園は保護者の関係づくりに積極的に働きかけてはいないことが指摘されている。神谷・諏訪・杉山（2008）の調査によれば、「他の親と一緒に話し合える機会をつくるようにすすめる」という保育者は、3割に満たない。平成20年の幼稚園教育要領の改定においても、保護者同士の交流の機会を提供することが求められたことは、先に述べた通りである。

保育参画は、保育参観や保育参加と異なり、事前に保護者同士で企画の準備をしなければならないという特徴をもつ。以下で示すアンケート調査結果は、保護者独自の企画を行った保護者を対象としたアンケート調査への回答を分析したものである（注1：自由記述形式の質問項目に対する回答については、最も重きをおいて書かれている内容1つを取り上げて分析した。以下、すべての分析において同様。注2：夫婦で参加した場合、アンケートは1家庭1枚とした。）。

表2は、アンケートの調査項目「企画の準備段階において、楽しかったことやよかったこと」への回答結果を示したものである。

表2 保護者独自の企画の準備段階において、楽しかったことやよかったこと

	年少	年中	年長
他の保護者と仲良くなれた			
子どもの話やそれ以外の話などいろいろな話ができただ	8( 34.8)	38( 63.3)	11( 27.5)
子どもが喜ぶ姿や楽しんでいる姿を想像しながら考えたことが楽しかった	6( 26.1)	5( 8.3)	4( 10.0)
企画の内容を詳しく知ることができた			
材料の準備をすることが楽しかった	2( 8.7)	6( 10.0)	8( 20.0)
特になし	3( 13.0)	10( 16.7)	14( 35.0)
その他	4( 17.4)	1( 1.7)	3( 7.5)
合計	23(100.0)	60(100.0)	40(100.0)

「企画の準備段階において楽しかったことやよかったこと」として、「他の保護者と仲良くなれた」「子どもの話などいろいろな話ができただ」と回答した保護者は、年少児の保護者で34.8%、年中児の保護者で63.3%、年長児の保護者で27.5%と、いずれの年齢においても高い割合を示した。企画の準備時間が保護者同士の親睦を深め、育児についての会話を促進する場となっており、そのこ

とを保護者自身が「楽しかったこと、よかったこと」と肯定的に捉えていた。アンケートへの回答では、企画についての話し合いや練習をするなかで、「ふだんの子どもの様子についての相談をしたりできた」「子育てについて相談することができた」などの記述が見られた。独自の企画を計画し準備することが、保護者同士が自然に支え合ったり、助け合ったりできるような場となり、保

表3 保護者独自の企画の準備段階において、大変だったことや苦労したこと

	年少	年中	年長
他の保護者との準備時間の調整	1( 4.3)	6( 10.0)	4( 10.0)
子どもがどれくらいまでできるのかわからなかったこと	3( 13.0)	6( 10.0)	1( 2.5)
企画を何にするか考えること	1( 4.3)	7( 11.7)	5( 12.5)
決まった企画の準備	7( 30.5)	7( 11.7)	5( 12.5)
特になし	11( 47.9)	33( 55.0)	25( 62.5)
その他	0( 0.0)	1( 1.6)	0( 0.0)
合計	23(100.0)	60(100.0)	40(100.0)

護者同士のネットワークづくりのきっかけとして有効に働くことが示唆された。

(2) 子ども理解の促進

保護者独自の企画の計画・準備は、子どもの興味・関心や、子どもの今できること、できないことなどについて、普段の子どもの姿から予想したり、考えたりすることを要求する。アンケート項目「企画の準備段階において大変だったことや苦労したこと」への回答結果を表3に示す。

「子どもがどのくらいまでできるのかわからなかった」と回答した保護者は、年少児では13.0%と他の年齢よりも高い割合を示し、年中児、年長児と年齢が上がるにつれて減少した。

子どもの姿を予想しながら企画の計画・準備を行い、実際に企画を実施することは、子どもの育ちの実態について知ろうとする保護者の意欲を高める。先に示した「企画の準備段階において楽しかったことやよかったこと」についての回答の中に、「子ども達の予想される動きについて、他のお母さんの意見を聞くことができた」というものがあり、保護者同士が、企画の準備をしながら、子どもたちの発達の様子について互いに意見交換をしていたことも伺われた。

では、計画・準備をした企画を実施してみたの保護者の感想はどうであろうか。アンケートの調査項目「保育参画当日、企画を実施して、大変だったことや苦労したこと」への回答を示したものが表4である。

表4 保育参画当日、保護者独自の企画を実施して、大変だったことや苦労したこと

	年少	年中	年長
保護者間の時間の調整	2( 8.7)	7( 11.7)	1( 2.5)
子どもの理解度がわからない	3( 13.0)	1( 1.7)	3( 7.5)
子どもの動きへの対応	2( 8.7)	10( 16.7)	6( 15.0)
自分の動きの反省	3( 13.0)	11( 18.2)	12( 30.0)
その他	0( 0.0)	4( 6.7)	3( 7.5)
特になし	13( 56.6)	27( 45.0)	15( 37.5)
合計	23(100.0)	60(100.0)	40(100.0)

「保育参画当日、企画を実施して、大変だったことや苦労したこと」という項目においても、子どもたちにちゃんと伝わっているのか、子どもたちが理解してくれているのかなど「子どもの理解度」に関して困難を感じたと回答した保護者は、年中児・年長児の保護者に比べ、年少児の保護者で13.0%と高い割合を示した。このように、

初めて保育参画を経験する年少児の保護者では、子どもの発達や様子に基づいて自らが働きかけを行う保育参画で、子ども理解に困難を感じる保護者の割合が高かったが、保育参画を重ねることで、「子ども理解」における困難感は減じるようであった。

企画の準備段階において「子どもがどれくらいまでで

きるのがわからなかった」という回答が子どもの年齢が上がるにつれて減少すること（表3）からも、保育参画における企画の計画や実施を経験することで、保護者が子どもの育ちに関心を持つようになり、家庭や園における生活のさまざまな場面で子どもの姿を積極的に見ようとする姿勢を持つようになり、その経験を積み重ねることで、子どもの発達や子どもの世界についての理解が深まり、広がっていくことを示唆しているといえよう。

保護者が保育に参加することで、多くの子どもに触れ、発達の様子を知り、子どもの世界を感じ、子ども理解を広げ、深めていくことは友定（2004）も述べているところであるが、保育時間中の自由なかかわり（保育参加）では、保護者は、子どもがどんな遊びをしているか見ていたり、子どものしている遊びを邪魔しないように積極的なかかわりをひかえたりと、子どもの遊びに対して、受身的なかかわりにとどまりがちである。それに比べ、保護者独自の企画を行うことは、子どもの今できること、できないことなどについて普段の子どもの姿から予想したり、考えたりして企画・準備を行い、そして実際にやってみることで、子どもの育ちの実態についてよりいっそう理解を深めることができる。アンケートの回答においても「予想以上に…」「思っていた以上に…」「意外と…」という言葉が多く見られ、保護者独自の企画を計画・実施することは、保護者が子どもの発達について、より積極的、主体的に考える機会となり、保護者が子どもの育ちについてより具体的に理解を深める機会となるものと考えられる。

### （3）保育・保育者理解の促進

アンケート項目「保育参画当日、企画を実施して、大変だったことや苦勞したこと」（前出、表4）として、「子どもの動きへの対応」や「自分の動きの反省」など、保育をする側としての動きに困難を感じたと回答した保護者は、年少児の保護者で21.7%、年中児の保護者で34.9%、年長児の保護者で45.0%と、いずれの年齢においても高い割合を示した。年長児の保護者ほど「子どもの動きへの対応」や「自分の動きの反省」に難しさを感じた者が多いことは、それまでの保育参画の経験から、今回はこういうふうにしたいという思い、そして、それがうまく実行できなかったことへの反省の気持ちから、年々強くなっていくこと、すなわち、企画の実施を重ね

るなかで、保護者が子どもに教育的な意図をもって働きかけを行うようになること、そしてその難しさをより実感するようになっていくことを示唆する結果である。

企画を構想しそれを実行することは、教師の仕事や立場を疑似体験することであり、企画の準備と実行を通して、子どもへの願いに基づく働きかけの難しさを経験することは、保育や教師に対する保護者の理解を深める。保育参画後の懇談会においては、「…間合いとかの取り方が難しくって。R先生が一言発すると、みんながワアッと集中して話を聞いているなど、さすがプロだなというのを感じて、私たちとは違うなというのを思いました」「覚えて来るのも大変で。先生達は、それをもっと練習してスムーズにできているんだなって、自分でやってみて思いました。作るのも大変なんでしょうけど、それを実行するのも、それなりに練習をしないと。やることで必死で、子ども達を見れていなかったの。先生ってすごいなと、本当に思いました」などの声が聞かれた。保護者自身が実際に企画を計画・準備し、実践するからこそ、子どもの動きへの対応が大変なことを体感すると同時に、よりいっそう、教師の大変さや配慮などについての理解を深めることができるのだろう。

保護者は、保育者のいろいろな保育の方法やかかわり方の違いを知ることで、自分の子どもへのかかわり方のヒントも得、こうしなければと固くなっていた子育てについて、もっと気楽に子どもとかわる方法を見つけていくと言われる（小山・佐藤，2005）。自らが子ども達に働きかけを行う保育参画においては、保護者は、自らが実際に子ども達に働きかけてうまくいかなかった経験から、教師がどのように子ども達に声かけをしたり、対応したりしているのかにより注目するようになり、一見、何気なくなされているようにみえる教師のかかわり方や働きかけの意図や意味がより理解されることにつながるだろう。保育や教師に対する保護者の理解が深まることは、幼稚園と家庭との連携を促進することにつながると考えられる。

## 4. 保育参画の課題

### （1）保育参画における保護者独自の企画の比重

表5は、アンケート項目「企画の実施以外にもっていた保育参画の目的やねらい」に対する回答を示したもの

である。「わが子や他の子とかかわりたい」というものがいずれの年齢の保護者においても高い割合を示した(年少児47.9%, 年中児41.7%, 年長児30.0%)。とりわけ、年少児の保護者では「我が子とかかわりたい」(21.7%)という者が、年長児の保護者では「他の子とかかわりたい」(15.0%)という者が高い割合を示している。しかし、年長組の懇談会での発言に「年中の時と比べて、「〇〇ちゃんのお母さん、これして遊ぼう」という機会が少なくなって、子ども同士で遊んでいる姿をよく目にしたなと思います」とあるように、保育時間中の自由なかかわりの時間において、年少児、年中児では親と一緒にいることが多いが、年長児になると子ども同士で遊ぶため、年長児の保護者の中には子ども達とのかかわりを持ってない姿も多くみられた。

保護者独自の企画の時間には、子どもたちが自然に保護者の周囲に集まり企画を楽しむ様子が見られたことから、企画の内容や方法を工夫することで、保護者が子どもとかかわる機会を積極的に作り出すこともできるだろう。幼稚園側には、保護者のニーズにあった企画についてのアイデアの提供や助言をする役割が求められよう。

企画の準備段階、参画当日の企画実施のいずれにおいても、「子ども理解」に困難を感じたと回答した保護者が少なからず存在することも考慮すると、企画以外の時間における子どもとのかかわりを充実させることは、今後重要な課題であろう。

また、年少児の保護者では、「園の様子を知りたい」と回答した保護者が21.7%と高い割合を示した。入園して2ヶ月ばかりの年少児の保護者にとっては、子ども達の園での過ごし方や園の雰囲気などを知りたいと思う者が多いことを示している。入園直後の時期においては、旧来型の保育参観もまた必要なものであろう。

他方、企画以外の目的やねらいについて、「特になし」と回答した者は年齢とともに増加し、年長児の保護者では45.0%と高い割合を示した。企画をすることのみが目的となり、それ以外の参画時間を無為に過ごすことがないように、幼稚園側は、どのような場面や姿をみてほしいか、子ども達にどのようなかかわりをしてほしいかなどについて、積極的に提案や助言をする必要があるだろう。

表5 保護者独自の企画以外にもっていた保育参観の目的

	年少	年中	年長
我が子・他の子とかかわりたい、知りたい	2( 8.8)	10( 16.7)	2( 5.0)
我が子とかかわりたい、知りたい	5( 21.7)	9( 15.0)	4( 10.0)
他の子とかかわりたい、知りたい	4( 17.4)	6( 10.0)	6( 15.0)
園の様子を知りたい	5( 21.7)	4( 6.7)	3( 7.5)
とにかく楽しみたい	3( 13.0)	5( 8.3)	2( 5.0)
特になし	3( 13.0)	21( 35.0)	18( 45.0)
その他	1( 4.4)	5( 8.3)	5( 12.5)
合計	23(100.0)	60(100.0)	40(100.0)

## (2) 父親の参加

諏訪ら(2008)が3万人を対象に実施した「保育・子育て意識調査」によると、母親の4分の3は、同じ幼稚園を利用する親同士で子どもについて話をする機会を週に1, 2回以上持っているのに対して、父親の9割は子育てについて語り合い、悩みなどを共有する機会がまったくない、あるいは年に数回しかないという結果が報告されている。父親の育児に対する理解や育児参加が

あるほど、母親の育児不安が低いことは、多くの研究が指摘してきたところである(住田・田中・溝田, 2000など)。しかし、先に示した通り、保育参画に参加した保護者は母親が圧倒的に多かった。父親の参加総数は、夫婦で参加した者も含め28名にとどまる。父親の保育参画を促すためには、どのような取り組みが必要であろうか。

父親の参加者28名のうち19名は6月21日(土)に保

育参画を行っていた。保育参画後の懇談会において「ふだんは仕事をしてまして、平日は妻が幼稚園の送り迎えをしてまして、こういう土日に参観日をしてもらえるのを非常にうれしく思います。平日はやっぱり参加できなくて、どうしても妻からの情報というか、今日はどうだったこうだったというのを聞くんですけど、自分の目で確かめてみたいなのがありますので、こういうのがあれば是非参加したいなと思っています」という声が聞かれた。土日を含め数日にわたって保育参画日を設定することが、父親を含めより多くの保護者の主体的な保育参画を可能にするだろう。

意外であったのは、自分ひとりで保育参画に参加した父親20名のうち、19人が保護者独自の企画を実施していたことである。しかし、母親単独の参加者の企画準備時間（平均）106.0分に比べ、父親が企画の準備に費やした総時間（平均）はわずか9.4分であり、アンケートの回答に「他のお母様にお任せしていました」「仕事があるため、打ち合わせに参加できなかった」などの記述があるように、企画の準備は同じ企画を実施する母親たちに任せているようであった。保護者同士で企画を計画し準備する時間が、子育てについて語りあう場や保護者同士のネットワークづくりのきっかけになることは、先に示した通りである。当日に早く集まって準備をする機会を設けるなど、父親が他の保護者と少しでも多く時間・場を共有できる方途をさぐる必要があるだろう。

また、アンケート項目「今後、また今回のような保育参画の機会があった場合、どのような形での保育参画がしたいか（「保護者独自の企画」「幼稚園が準備する企画」「保育時間中の自由なかかわり」「その他—具体的に記入」から選択）とその理由」に対する回答では、「幼稚園が準備する企画に参加したい」と回答した父親（26.7%）、「保育時間中の自由なかかわりがよい」と回答した父親（26.7%）に比べ、「保護者独自の企画をしたい」と回答した父親が40.0%と多く、「準備にさく時間は実際にはないかもしれないが、できることなら保護者独自の企画をしてみたい」とする声が聞かれた。先に示した通り、企画の計画・実施は、保護者の子ども理解や保育・教師理解を促進する。保護者独自の企画をしてみたいという父親の意欲を受けとめるとともに、独自の企画を実施することの推奨が父親の保育参画の障害とならないよう

に、他の保護者と集まって一緒に準備をする時間をとりにくい父親でも取り組みやすい企画を幼稚園側が提案することが必要であろう。

##### 5. 保育参画後の懇談会の意義

保育参画当日、参画に引き続いて行われる教師と保護者との懇談会では、保護者が実施した企画を通して子ども達がどんなことを感じていたのかについて、教師が保護者に伝えていた。また、「今はあれ（保護者の企画）を聞いて、自分達もしてみたいと思う時期ではないので、2学期になったときに刺激として与えると、じゃあぼくたちもやってみたいっていう気持ちになってくる」というように、企画が子ども達の生活や育ちにどう位置づいていくのかや、「聞かないとだめよって言い聞かせたり、力で抑えるのは簡単なんです。子ども自身に聞く楽しさを感じさせながら聞く姿勢を身につけてもらうというのが幼稚園の義務だと思って、そうやって身につけたものが小学校に行って役に立つので、今の時点では聞く楽しさというのを経験することが大切だと感じているので、そういった意味では、今日のような経験は子ども達にとってよかったと思います」というように、幼稚園側は企画を保育にどう活かしていこうと考えたのかや幼稚園（学級）の教育方針などについて、幼稚園の教師が保護者に伝えていた。幼稚園側が、保護者が実施した企画の意味づけをすることが、次の保育参画への保護者の意欲につながるとともに、保護者のさらに深い子ども理解、保育・教師理解につながるようであった。

##### おわりに

本研究では、おもに、保育参画の特徴である保護者独自の企画に焦点をあてて検討を行った。保護者の子ども理解や保育・教師理解は、保育参加における保育時間中の自由なかかわりのなかでも深めることができることが明らかにされている（友定, 2004）。しかし、本研究から、保育参画において保護者に独自の企画に取り組んでもらい主体的に子どもたちに働きかけてもらうことは、子どもや教師、保育についての保護者の理解をよりいっそう深めることにつながることを示唆された。また、企画の準備時間が、保護者同士のネットワークづくりの時間・場となることも明らかとなった。今後は、保護者のニー

ズに応じた企画の提案や父親の参加を促す取り組みの必要性などいくつかの課題の解決に向けた取り組みが求められる。

他方、保護者に独自の企画を計画・実施してもらうようより積極的な保育への関与を求めるばかりでなく、子ども理解の難しさを感じる保護者の存在を考慮して企画以外の時間における子どもとのかかわりを充実させることや、入園間もない保護者に幼稚園生活の概要を知ってもらうために旧来型の保育参観の機会も保障することなどもまた重要な取り組みであることが示唆された。

#### IV. 引用・参考文献

- 伊藤輝子 2001「保育参加・相互理解でパートナーシップの形成を」(特集 保育参加で子どもを知る)『保育の友』49(6)10-27頁
- 小山孝子・佐藤佳代子 2005『いっしょに子育て 保育参観・保育参加』フレーベル館
- 住田正樹・田中理絵・溝田めぐみ 2000「父親の家事育児参加と母親の育児不安」『日本保育学会 第53回大会 発表論文集』640-641頁
- 諏訪さぬ・菅田直子・戸田有一・村山祐一・山本理絵・石野陽子・望月彰・神谷哲司・渡邊保紀・杉山隆一 2008「保育者は子育て支援にどんな意義を見出しているか」『発達』No.114 Vol.29 ミネルヴァ書房
- 高原砂夜子 1995「保育所と家庭との連携を探るー保育行事を通して親の保育参観を考えるー」『日本保育学会 第48回大会 発表論文集』690-691頁
- 友定啓子 2004『もう一つの子育て支援 保護者サポートシステム』フレーベル館
- 古平直子 1999「保護者が子育てに自信をもって取り組むための支援ー保育参加を通して(特集 少子化時代の学校ー実践事例 少子化時代の学校の取り組み)」『教育じほうNo.613』38-41頁 東京都教育庁調査課, 東京都新教育研究会
- 北海道教育委員会 1992『幼稚園における家庭・地域等連携:保護者の保育参加(マザーズティーチャー)に関する分野』
- 文部科学省 2008『幼稚園教育要領解説』フレーベル館
- 藪田晴美・西垣めぐみ・濱部有希・村井希久子・伊藤紀

子・西垣芳美・坂本直史・衣笠保子・佐分利育代  
2006「実践研究 育ち合うー保育参加と子育て支援」『鳥取大学生涯教育総合センター研究紀要 第2巻』47-57頁

#### 資料：アンケート調査の質問項目

##### ●独自に企画を計画・実施した保護者用

- I. 保育参画日を○日にした理由をご記入ください。
- II. 実施した企画についてお尋ねします。
  - (1)「カレーづくり」や「保育時間中の自由なかかわりのみ」ではなく、「保護者独自の企画」をしようと思った理由をご記入ください。
  - (2) 今回の企画では何をなさいましたか。また、その内容にした理由をご記入ください。
  - (3) 今回の企画にあたり、何か目的やねらいを持っていた方はご記入ください。
  - (4) 企画を実施した時間をご記入ください。
  - (5) 企画の打ち合わせはいつ頃から始めましたか。
  - (6) 保育参画当日までに、企画の準備のために何回くらい集まりましたか。
  - (7) 企画の準備にかかった総時間はどのくらいでしたか。
  - (8) 企画の準備段階において、楽しかったことやよかったことがあればご記入ください。
  - (9) 企画の準備段階において、大変だったことや苦労したことがあればご記入ください。
  - (10) 保育参画当日、企画を実施して、楽しかったことやよかったことがあればご記入ください。
  - (11) 保育参画当日、企画を実施して、大変だったことや苦労したことがあればご記入ください。
- III. 企画以外の保育参画時間についてお尋ねします。
  - (1) 企画以外の保育参画時間に、子ども達と自由なかかわりをもちましたか。
  - (2) 企画以外での保育参画にあたり、何か目的やねらいをもっていた方はご記入ください。
  - (3) 企画以外での保育参画を通して、学んだことやよかったことがあればご記入ください。
- IV. 保育参画全体についてお尋ねします。
  - (1) 今回の保育参画を通して、疑問に思ったことや先

生に聞きたいこと、要望などがあればご記入ください。

- (2) 今後、また今回のような保育参画の機会があった場合、「今度はこんなふうにしてみたい」と思うことがあればご記入ください。
- (3) 今後、また今回のような保育参画の機会があった場合、どのような形での保育参画がしたいですか（「保護者独自の企画」「幼稚園が準備する企画」「保育時間中の自由なかかわり」「その他—具体的に記入」から選択）。また、その理由をご記入ください。
- (4) その他、保育参画について何かございましたらご記入ください。

●幼稚園が準備した企画（カレーづくり）を実施した保護者用

- I. 保育参画でのカレーづくりについてお尋ねします。
  - (1) 保育参画にあたり、カレーづくりの日を選択された理由をご記入ください。
  - (2) 今回のカレーづくりにあたり、何か目的やねらいを持っていた方はご記入ください。
  - (3) 今回のカレーづくりにおいて、楽しかったことやよかったことがあればご記入ください。
  - (4) 今回のカレーづくりにおいて、大変だったことや苦労したことがあればご記入ください。
- II. カレーづくり以外の保育参画時間についてお尋ねします。
  - (1) カレーづくり以外の保育参画時間に、子ども達と自由なかかわりをもちましたか。
  - (2) カレーづくり以外での保育参画にあたり、何か目的やねらいをもっていた方はご記入ください。
  - (3) カレーづくり以外での保育参画を通して、学んだことやわかったことがあればご記入ください。
- III. 保育参画全体についてお尋ねします。
  - (1) 今回の保育参画を通して、疑問に思ったことや先生に聞きたいこと、要望などがあればご記入ください。
  - (2) 今後、また今回のような保育参画の機会があった場合、「今度はこんなふうにしてみたい」と思うことがあればご記入ください。
  - (3) 今後、また今回のような保育参画の機会があった場合、どのような形での保育参画がしたいですか（「保護者独自の企画」「幼稚園が準備する企画」「保育時間中の自由なかかわり」「その他—具体的に記入」から選択）。また、その理由をご記入ください。

「保護者独自の企画」「幼稚園が準備する企画」「保育時間中の自由なかかわり」「その他—具体的に記入」から選択）。また、その理由をご記入ください。

- (4) その他、保育参画について何かございましたらご記入ください。

●保育時間中の自由なかかわりのみの保護者用

- I. 保育参画日を○日にした理由をご記入ください。
- II. 「カレーづくり」や「保護者独自の企画」ではなく、「保育時間中の自由なかかわりのみ」にしようと思った理由があれば、ご記入ください。
- III. 「保育時間中の自由なかかわり」をするにあたり、何か目的やねらいをもっていた方はご記入ください。
- IV. 「保育時間中の自由なかかわり」をしてみても、感じたことについてお答えください。
  - (1) あなたのお子さんの姿をみて感じたことがあればご記入ください。
  - (2) 他のお子さんの姿をみて感じたことがあればご記入ください。
  - (3) 先生の保育の様子をみて感じたことがあればご記入ください。
- V. 保育参画全体についてお尋ねします。
  - (1) 今回の保育参画を通して、疑問に思ったことや先生に聞きたいこと、要望などがあればご記入ください。
  - (2) 今後、また今回のような保育参画の機会があった場合、「今度はこんなふうにしてみたい」と思うことがあればご記入ください。
  - (3) 今後、また今回のような保育参画の機会があった場合、どのような形での保育参画がしたいですか（「保護者独自の企画」「幼稚園が準備する企画」「保育時間中の自由なかかわり」「その他—具体的に記入」から選択）。また、その理由をご記入ください。
  - (4) その他、保育参画について何かございましたらご記入ください。